

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070500588		
法人名	特定非営利活動法人ひだまり		
事業所名	グル - プホ - ムひだまり		
所在地	長野県飯田市駄科846 - 1		
自己評価作成日	平成23年1月7日	評価結果市町村受理日	平成23年5月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070500588&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成23年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりのペースを尊重し、穏やかに過ごしていただけるよう取り組んでいます。本人ができる事、好きなことを日課に取り入れたり、季節の行事を行い、ご本人の能力を活かせるような支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームひだまり」は、静かな住宅地の中にあり、民家を改修し自分の家のような温かみのあるホームである。利用者は仲間同士で楽しくおしゃべりして、利用者職員との笑顔と穏やかな表情を伺うとホームのカラーがそこにあるよう映った。ホームの理念に掲げられているように「...自分らしく...」を支援できるよう、管理者及び職員の知識に頼った思い込みが利用者の不安にならないよう、本人がどのような状況にあるのか、何を望んでいるのか観察することにより、利用者の自主性を重んじながら、利用者の話をきちんと聴くことを大切にしている。また、自らサービスを提供する点検を実施し、職員は業務として食事、排泄等の介助をする視点から、その人の生活リズム、嗜好、今までの生活の中で培ってきた事などに視点がいき、本来の利用者に関わるといふ達成感を利用者からいっぱい教えて頂いている職員教育を大切にしている。又、法人内のもつ力を活かして、宅老所や子育て支援等の活動も行われ、地域への貢献度が増してくる事を期待される。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念があり、職員全員が共有し実践につなげようと努力している。	昨年の外部評価を基に、全職員で目標達成計画の第一順位におき、「...自分らしく生活して頂くよう...」のひだまり独自の理念を作られた。ホームの玄関等に掲げ、毎月の職員会や日常業務の引き継ぎに話を行い、日常生活の中で実践に繋げるよう努めている。家族や地域へのお便りにも毎月掲載するよう工夫している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご近所の方との挨拶、ゴミ当番への参加、地域交流会や文化祭へ作品出展などを通じ、地域とつながりを持てるよう努めている。	周辺の散歩や床屋、買い物に出かけお話をしながら交流をしている。自治会には加入していないが区費を出し、ゴミ当番の出勤や地域の催事等参加し、利用者が地域の一人として主体的に生活できるよう努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後、地域の文化祭や推進会議を通じ、認知症についての理解や支援方法を伝えていく努力をしたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議においてひだまりの活動を理解していただき、様々な意見をいただけるよう取り組んでいる。又そこでの意見は職員にも伝えられ、サービス向上に活かすよう努めている。	お隣の方・家族代表・民生委員・地域包括センター・職員等で構成され定期的な会議を実施している。外部評価の受審結果報告や委員からの意見等を頂きそれを全職員に伝え、サービスの向上に活かすよう努めている。今後は事業所の力を活かした地域貢献を行うよう検討されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に地域包括支援センター・職員の参加介護高齢課とも必要に応じ連絡を取り協力関係を築くよう努めている。	日常的な事業運営に疑義が生じた時は、行政担当者へ相談に伺い、関係作りに力を注いでいる。	

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の施錠はしていない。全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームにおける行方不明者の事例検討や言葉や気持ちを抑えつけないか点検を行い、原因究明シートを作成し、身体拘束に関する学習会を事業所内で実施し、全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に注意を払い防止に努めている。法については研修参加職員を中心に学習会を予定している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加職員を中心に学習会を予定しているが活用支援できる状態にいたっていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書重要事項説明書を元に説明を行っている。又1部持ち帰っていただき解らないところがあれば再度説明させていただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族が日頃から意見、要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。又出された意見については職員会などを通じ共有されている。	ホームから、毎月”ひだまりだより”や利用料の請求書と一緒に事業所の運営等について報告されている。家族等来訪時に、意見・要望等を伺いよう努めているが、意見・要望等は少ない。今後アンケート等を行い積極的に意見を聴く場面作りを検討している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の運営会議があり職員からの意見を反映できるよう努めている。	毎月の職員会では、収支状況等事業計画に対する進捗状況を検討している。また、年1回の代表者との面談の機会があり、自らの意見を言う場が設けられている。	

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回代表者との面談の際、自らの意見を発言する場が設けられている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に計画的に参加することができた。今後その研修成果を実践の場で活かしていけるよう取り組んでいきたい。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流会、実習生の受け入れなど徐々に広がってきており、サービスの質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を元に、ご利用者の声に耳を傾けながら、しっかりした信頼関係が築けるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内をみていただき、ご家族の不安、要望に耳を傾けながら、安心していただけるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の情報を元に必要なサービスをどう受けていただくか、相談、選択していただいている。		

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の押し付けにならないようそれぞれ役割を持って生活していただけるよう支援している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は一緒にお茶を飲み話をするなど本人と家族の絆を大切にしよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや地域の行事がある時はご家族が迎えに来て参加している。又馴染みの場所などに実際にでかけるなどして継続の支援につなげている	馴染みの床屋にお出かけて、親しい人との会話や昔勤務していた会社周辺へのドライブなど行っている。支援する職員は既成観念にとらわれる事のないように、アセスメントシートや家族等から把握して、継続的な交流ができるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の方達の様子をみながら、関わり合い支え合えるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後はなにもしていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々接する中で把握に努めており困難な場合は、相手の立場で考えるようにしている。	日々接する中で、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、顔の表情や小さな動きなどで把握するよう努めている。日々のケアの中で全職員が「本人はどうか」という視点に立ち話し合い、これを記録にして、検討される事を期待する。	

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報、本人ご家族からの話から、どんな暮らしだったか、生活環境を知るよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に生活する中で個々の過ごし方、出来る事心身状態などの把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の訴え、望みを聞き現状に合わせた計画作成を行っている。	職員会において、計画について意見を出し合い、話し合いを行い、計画作成担当者がまとめている。	利用者の意思表示が不十分な場合、職員のニーズに対応するケアプランになってしまわないよう、「本人の願い」を日々の記録からそして、家族等からの意見を頂き、計画に反映する事を期待する。又、インフォーマルなサービスを位置づけ地域との繋がりプランも期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察記録に残し職員間で共有しながらケアや計画に活かすよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状況、ご家族の状況の変化に対応できるよう取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人、物、場所の中で本人の力がだせるよう支援をしている。		

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の往診があり、必要に応じ適切な医療や指示が受けられる関係が築かれている。	毎月2回、主治医の往診が行われている。通院介助は基本的には家族対応となっているが、家族の都合が悪い時は職員が対応し、家族には電話で報告して、記録にも残している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と相談しながら対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者ご家族の希望をお聞きしながら安心して治療でき早期に退院できるよう病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族にアンケートをお願いするなど取り組み始めたがまだ安定していない。	利用者が重度化していく傾向にある中、家族等に重度化や終末期に向けてのアンケートをお願いした。研修を行い、職員が方針を共有して支援に取り組む方向を検討している。	「看取りに関する指針書」等を作成し、法人の方針等を明確にして、利用者や家族の意向を踏まえ、家族や関係者等と連携を取りながら、安心して終末期が迎えられ様な取り組みを期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員個々にAED講習など参加しているが事業所での定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い災害に備えている。地域の方にも参加頂き、協力体制が得られつつある。	昨年の外部評価を基に、全職員で目標達成計画を作成し、連絡網の作成や、ご近所に避難訓練参加のお願いをして、年2回の避難訓練等を実施した。又、自動火災報知機を設置した。災害時に備えて備品等の準備がある。	

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応をしている	ご利用者に沿った言葉がけや接し方に努めている。研修や職員会などを通じ高齢者介護のキ-ワ-ドは「尊厳」であることを気づくよう努めている。	「その人らしい尊厳を…」と利用者への声かけの対応と具体例を基に学習している。日常のケアの場面で気付いた時は、職員会等で事例を出し話し合いを行い、対人援助支援に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い希望に耳を傾け本人が選択できるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者のペースに沿うよう努めているが職員側の都合になってしまうこともある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人らしい服装や髪形ができるよう支援している。理容室にカットに出かける事は気分転換にもなっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をかんがえる、材料の下ごしらえ、洗い物など一緒に楽しみながら行っている。	利用者と職員と一緒に食事を頂き、感想を言いながら楽しい食事を摂っている。利用者と献立を考え買い物も一緒に行き、ホームの畑で収穫した野菜が食卓に上がっている。下ごしらえや配膳等利用者が行う中、職員のさり気ない支援が利用者のやる気に繋がっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は記録に残し摂取量を把握している。一人ひとりの食べる力に応じて食事の形態を工夫している。		

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はできていないが、定期的に入れ歯洗浄剤で洗浄、消毒を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせたトイレ排泄を基本とし声かけ誘導を行っている。	自立の方の利用者が多いが、見守り・全介助とそれぞれ利用者の身体機能に応じて対応している。パターンに応じた排泄支援を行う事によって、パット使用の利用者が自立されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無、量などを記録パターンを把握対応している。食事の工夫、緩下剤の調節行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず個々の習慣に合わせている。体調の悪い場合など清拭、足浴に変更することもある。	利用者一人ひとりの習慣に合わせて、入りたい時に入浴できるようになっている。全介助の利用者には職員2名の介助で入浴している。時には、ゆず湯や菖蒲湯など入り、季節の入浴を楽しまれている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて休息できるように対応している。温度、湿度、光などに配慮するよう取り組んでいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬表で内容は理解するよう努めているが、副作用についてもきちんと理解していく必要がある。		

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと、好きなこと、なじみのあることそれぞれに合った役割を探し、活かせるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物やドライブなどその日その時の希望で取り組めるよう努めている。	日常的な買い物や四季に合わせてドライブ、映画鑑賞等利用者の希望を把握し、家族とのお出かけもあり、いきいきと暮らすことができるよう、外出支援を行っている。又、地域の人達の協力も頂きながら支援ができるよう検討している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物など立て替えてつかえるようご家族に了解を得ており徐々に取り組んでいきたい。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間が不快にならないよう努めている。台所とホールが一緒になっており食事の支度、香りなど常に生活感がある。	共有空間には、利用者が協力して作成された作品や思い出の写真、季節の花が飾られ玄関に入るとホッとする場所となっている。台所とホールが一緒になっており、食事支度の音や香り等の生活感をうまく活用できる暮しの場となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置の検討、工夫などにより一人ひとりペースで過ごしていただけるよう支援している。		

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものや使いやすいものを置くなどして居心地良く過ごしていただけるよう支援している。	居室には、大切な人との思い出の写真や愛読書、仲間で作られた作品等飾られている。居室の掃除はできる人は自分で行い、時には仲間の利用者居室の掃除のお手伝いをしている。ひとり一人の居室は、居心地良く過ごせる工夫がされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットの配置、手すり、名札をつけるなど自立した生活が送れるよう支援している。	/	/